

多摩地域史研究会会報

第169号

2026(令和8)年1月25日発行

E-mail.tamatiken@yahoo.co.jp

(ホームページ現在休止中)

【第126回例会報告】 今回の例会は柴田実季氏と関塚英一会員による研究発表会でした。参加者は発表者を含め21名で、活発な議論が展開されました。内容は以下の通りです。

多摩地域周辺の縄文時代中期後葉曾利式土器の諸様相

柴田 実季

(東京都埋蔵文化財センター)

はじめに

縄文時代中期後葉の多摩地域では、南東北～北関東に分布する「大木式土器」と関東平野に広く分布する「加曾利 E 式土器」、中部高地を中心に分布する「曾利式土器」の主に 3 型式の土器が入り交じるように出土する。多摩地域の曾利式土器は、中部高地のものと遜色ないものもあれば、若干の変容を伴うものもあり、中には多摩地域周辺のみ認められる特有の要素を持った曾利式土器もみられる。また、当該の地域は加曾利 E 式が在地の土器であり、両者の特徴を併せ持つ「折衷土器」も一定の割合で見られる。

本発表では曾利式土器と、曾利式・加曾利 E 式の折衷土器に注目して、多摩地域の複雑な土器様相の一端をみていきたい。

1. 縄文時代中期後葉とは

曾利式土器の成立と各地の様相

曾利式土器の概要

2. 多摩地域の曾利式前半の土器について

①水煙文土器(第 1～2 図) : 多摩地域に残る勝坂式土器の要素

②X字把手土器(第 3 図)

③頸部籠目文土器(第 4～6 図) : 初期にみられる特殊な器形・口縁部重弧文との関係

④口縁部重弧文土器(第 7 図) : 胴部文様の傾向

⑤口縁部籠目文土器(第 7 図) : 胴部文様の傾向・口縁部重弧文との比較・多摩地域周辺の特徴

⑥口縁部斜行文土器(第 7 図) : 胴部文様の傾向・口縁部重弧文との比較・多摩地域周辺の特徴

⑦口縁部が無文の土器

※①～③は曾利式のなかでも特殊な器形または特殊な器形に端を発する土器。器形による分類。

※④～⑦は曾利式に一般的な器形で、口縁部文様による分類。

3. 折衷土器について

①折衷土器とは

②多様な折衷土器(第 8 図) : 多摩地域周辺の特徴・折衷土器の分類

4. 多摩地域の曾利式土器のまとめ

本発表では、多摩地域の曾利式土器を概観した。主に水煙文土器や口縁部籠目文・斜行文土